

**カキ「太秋」は 11 月中旬にかけて収穫すると、糖度が上昇し大玉果比率も増加する**

カキ「太秋」は、11 月中旬頃まで肥大を続け、しかも熟度の進行とともに糖度が上昇するため、成熟期後半の方が大玉果比率が高まり食味の良い果実が生産できる。

農業研究センター果樹研究所 落葉果樹研究室 (担当者: 加久るみ子)

**研究のねらい**

平成 18 年度の「農業の新しい技術」において、「太秋」は赤道面の果皮色 3.5 以上を目安に収穫を行うとよいことを報告している。しかし、産地では依然として早採りが多く、そのため、早期に販売が終了してしまい、後半の品薄感が販売上の課題となっている。そこで、露地栽培における「太秋」の熟度の違いと果実品質との関係を明らかにする。

**研究の成果**

1. 「太秋」の果実肥大は、9 月下旬から 10 月中旬には 10 日間肥大量が増加して急に進むが、成熟期に入っても肥大し続け、11 月中旬まで肥大する。このため、収穫時期が遅くなるほど大玉果比率が高くなる(図 1、図 2、図 3)。
2. 果皮の着色は、8 月下旬頃から緑色が淡くなり、9 月下旬から着色が始まるが、成熟に向けて着色が進行し、11 月上旬にはカラーチャート値で果頂部は 5 程度、赤道部は 4.5 程度となる(図 4)。
3. 「太秋」の果実は、成熟が進むにつれ糖度は上昇する。一方、果肉硬度はやや低下する傾向が見られる(表 1)。

**普及上の留意点**

1. 果頂部の果皮色がカラーチャート値で 6 程度となった果実は、サクサク感がかなり低下するので、その前に収穫する。
2. 成熟期後半になると、汚損果が増加する傾向にあるものの、袋掛けにより回避することができる。

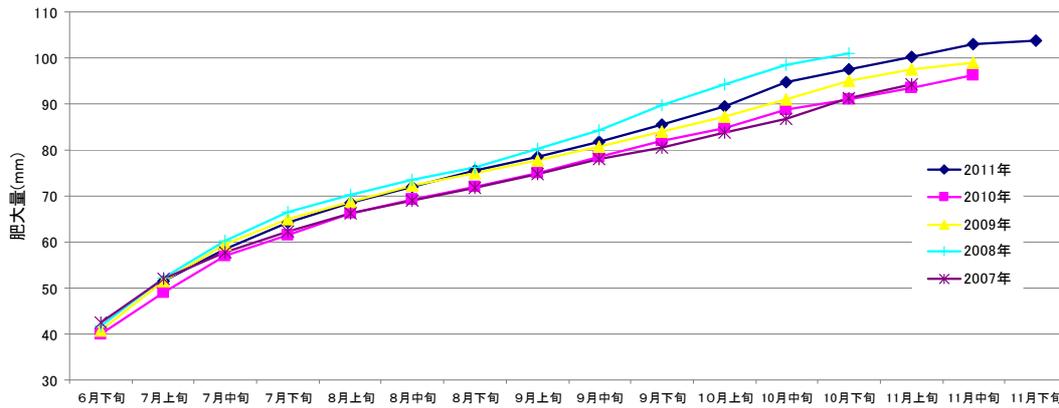


図1 「太秋」における果実横径の経時変化

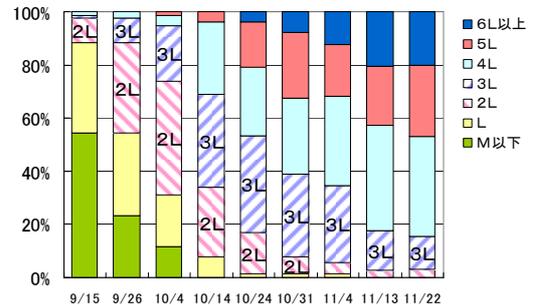
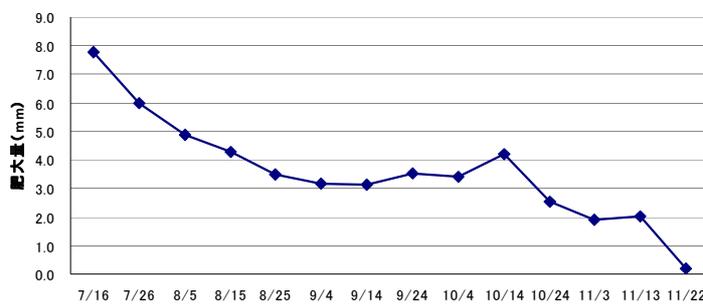


図2 「太秋」における果実横径の10日間肥大量の推移

図3 「太秋」の時期別階級比率

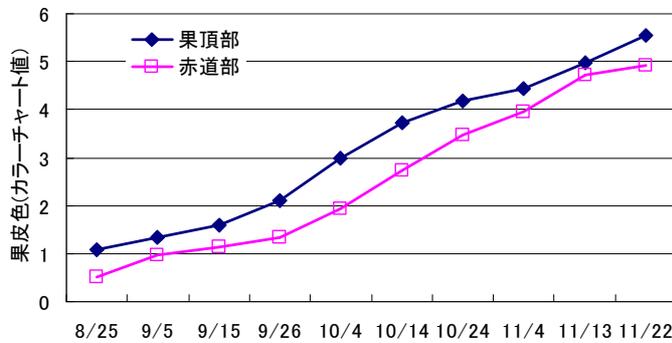


表1 「太秋」の収穫時期別の主要果実階級および3L以上果実の割合(%)

階級	9月26日	10月4日	10月14日	10月24日	11月4日	11月13日
4L	2.6	3.9	27.3	26.0	33.3	39.7
3L	9.1	20.8	35.1	36.4	29.2	14.7
2L	33.8	42.9	26.0	15.6	4.2	2.9
3L以上	11.7	26.0	66.2	83.1	94.4	97.1

図4 「太秋」における果皮色の経時変化

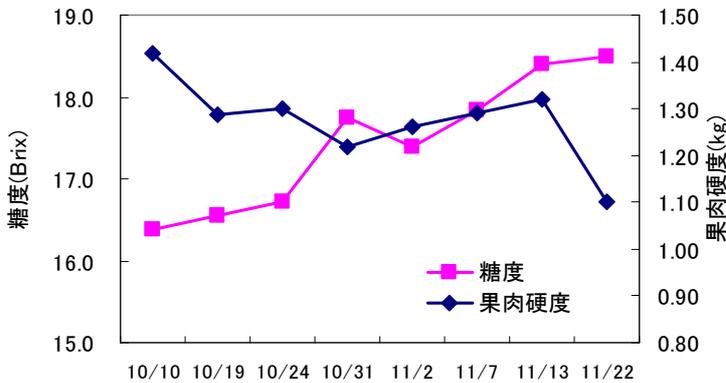


図5 「太秋」における糖度および果肉硬度の経時変化